

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 22 日作成)

小委員会名	環境心理生理学用語集小委員会		主 査 名：山田由紀子 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：吉野 博
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・学際的分野である環境心理生理分野の用語の英訳及び和訳がすぐに分かる用語集の作成 ・初期に刊行を予定していた用語集が説明付きのものに変わり、すでに用語は集まったが、その解説及び整合性を取ることが必要となった 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：山田 由紀子(明治大学)、幹事：辻村 壮平(明治大学)、小久保 隆之(明治大学)、有川 智(国土交通省国土技術政策総合研究所)、伊藤 俊介(東京電機大学)、岩田 利枝(東海大学)、大井 尚行(九州大学)、河口 豊(広島国際大学)、木村 通治(埼玉短期大学)、小島 隆矢(独立行政法人建築研究所)、園田 真理子(明治大学)、橋本 修左(武蔵野女子大学)、堀 祐治(独立行政法人建築研究所)、村松 陸雄(武蔵野女子大学)、安永 幸子(学習院大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	学際的分野である環境心理生理は、英論文を書く場合や文献を読む場合などに困ることがある。そこで、この分野の用語の英訳及び和訳とその用語の微妙な使い分けの違いなどを(注)として掲載した用語集を作成することを目的とした。本用語集は、研究者や学生、さらには環境心理生理の分野で活躍する人々に役立てて頂きたいと考えている。		
2006 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：無し	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 2005 年度活動計画では、2005 年 9 月に刊行を予定していた。しかし、全用語に簡単な説明(42 文字程度)をつけること、掲載する用語数が制限されることなどが決定し、そのために刊行が遅れた。しかし、内容に関しては、さらに洗練されたものとなると考えられる。本年度は、説明を加えた原稿を各委員から集める作業を行ったが、まだ全原稿は集まっていない。</p> <p>2. 各用語の『重複、過不足、採用・不採用』などの検討と同様に、各用語の 42 文字程度の説明についても検討を行う必要がある。主査である山田委員(明治大)と大井委員(九州大)を中心に、今後、この検討を行う必要がある。</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 本委員会は地方から出席する委員が多く、多額の交通費がかかるため、委員会開催回数が委員の交通費を勘案することで制限されてしまう。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>これまで、視環境、音環境、温熱環境、バリアフリー、設計計画、心理学、生理学など環境心理生理に関係のある分野の担当者を決め、各分野で出版されている用語事典から用語を収集した。2004年度から2005年度にかけて、全原稿をエクセルで整理したものを「あ」から順に一語ずつチェックを行ない、分野別の用語の粗密や学会によって異なる訳語や意味の取り方などについて検討を行ってきた。</p> <p>また、2005年度中の本小委員会では、委員が長時間(例えば10時～17時など)集まり、全ての用語について取舍選択を終えた。また、出版社との打ち合わせで、全ての用語に簡単な(42字程度の)説明を記すことが決定したため、各用語の説明や英訳のニュアンスの違いなどについても検討した。</p> <p>2006年度の進捗状況としては、各委員が各自の担当分野の用語の簡単な説明(42字程度)を記入した原稿を作成する作業を行っている。すでに提出済みの委員もいるが、未提出の委員には引き続き、原稿を催促している状況である。さらに、これまでに終えている各用語の『重複、過不足、採用・不採用』などの検討と同様に、各用語の42文字程度の説明に関しても検討を行う必要がある。この作業については、主査である山田委員(明治大)と大井委員(九州大)を中心に、現時点で集まっている原稿について早急実施する予定である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。